別荘建築における食卓まわりのしつらえ

安田研究室　06_13040　鈴木 春奈 (SUZUKI,Haruna)

１．序　別荘建築は、窓から屋外の風景を眺める、ﾃﾗｽに出て自然を満喫するなどの都会とは異なる生活を楽しむ住居としての特徴が見られる。特に食事という行為に着目すると、大きな広間の窓辺に食卓を配置する、食卓がｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀと隣接し一体的な使用を促すなど、部屋全体と食卓近傍という二つの領域での建築的しつらえ [1](以下しつらえ）を捉えることができる。そこで本研究は、別荘建築の食卓が置かれている部屋を対象として [2]、食卓まわりの平面と断面および窓やｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀなどの要素と食卓の関係を分析することにより、食卓まわり [3] のしつらえの特徴の一端を明らかにすることを目的とする。

２．食卓まわりの平面と断面　食卓まわりの平面を食卓と壁面 [4] との位置関係から検討し、3 つのﾊﾟﾀﾝが得られた (表 1)。**狭小**は食卓が壁面に四方を囲まれる **4 辺**や、三方をｱﾙｺｰﾌﾞ状に囲まれた場所に位置する **3 辺**ｱﾙｺｰﾌﾞである。**細長**は **3 辺**または **2 辺対面**という対面する壁面に挟まれた、幅の狭い部屋に食卓が置かれるものである。**広大**はＬ型の２辺の壁面に近接する **2 辺Ｌ型**や **1 辺**の壁面に食卓が近接するものである。また壁面がない **0 辺**が見られないことから、食卓は壁面に近接して置かれることが分かる。次に、食卓まわりの断面を天井および床の形状との関係で捉える（表 2)。床よりも天井に高低の形状変化が多く、特に食卓が高低どちらかに配置される場合は、天井では低い位置、床では高い位置にそれぞれ偏って配置される傾向が見られた。

３．食卓まわりの要素　食卓まわりの建築的な部位を行為に着目し、抽出した(表3)。**窓**、ﾃﾗｽ付きの窓(以下**ﾃﾗｽ**)、ｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀが突出して多く見られたことから、これらを主要素と呼び、それらの組合せとして 8 つの主要素ﾊﾟﾀﾝが得られた（表 4)。複数の主要素を組み合わせた**エ～キ**が大半を占める傾向が見られた（100/134)。

４．食卓まわりのしつらえ　前章までに得られた食卓まわりの平面ﾊﾟﾀンと主要素ﾊﾟﾀンの組合せから、食卓まわりのしつらえの類型として **A～K** が得られた（表 5)。**A**、**B** は主要素の種類が単数のもので、平面ﾊﾟﾀンは**狭小**である。主要素が **A** は**窓**、**B** はﾃﾗｽであるのに対し、主要素ﾊﾟﾀン**ウ**によるしつらえの類型がないことから、主要素が単数で屋外とつながるもののみに特化される場合は、相対的に狭い部屋にしつらえられる傾向が見られる。次に主要素の種類が複数の類型を見ると、特定の平面ﾊﾟﾀンへの偏りが見られるものは、**窓**とﾃﾗｽの組合せの **C** のみである。この平面ﾊﾟﾀンが **3 辺**のみであることから、**窓**やﾃﾗｽで屋外につながる行為を促す要素が、細長い部屋の末端にしつらえられた類型である。さらに食卓と主要素が接する場合に着目すると、**C** では**窓**と接するものが多く見られ、同様のものが **A** でも多く見られる。これらは相対的に狭く囲われた食卓まわりにおいて、屋外とのつながりが強められていると捉えられる。**D**、**E**、**F** は**窓**とｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀの組合せである。**D** は**狭小**、**E** は**細長**、**F** は**広大**の平面ﾊﾟﾀンである。また、**F**、**E**、**D** の順に対象の数が多く見られることから、**窓**とｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀの組合せは相対的に広い部屋にしつらえられる傾向が見られる。さらに **F** は、特に食卓まわりの天井が段差によって低くなるものが多く、平面的な広がりの中で食卓近傍の天井に断面的な変化が与えられている。**G**、**H** はﾃﾗｽとｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀの組合せである。このうち **G** は最も多い類型であることから、これらの主要素の組合せは**細長**の部屋にしつらえられる傾向が見られる。**I**、**J**、**K** は全ての主要素があり、全ての平面ﾊﾟﾀンに分布する類型である。ﾃﾗｽとｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀのある主要素ﾊﾟﾀンである**カ**と**キ**に着目すると、**細長**や**広大**の平面ﾊﾟﾀンをもつ **G**、**H**、**J**、**K** の対象数が多いことから、屋外に出るという行為と料理という行為を促す要素の組合せによって相対的に広い部屋に食卓まわりがしつらえられる傾向が見られる。それに対して **I** は料理や屋外に出る、景色を眺めるといった行為を促す要素が壁面に囲まれた狭い部屋にしつらえられた類型である。さらに食卓と主要素が接する場合に着目すると、**I** ではｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀと接するものが多く見られ、同様のものが **D** でも多く見られる。このような相対的に狭い部屋に置かれた食卓はｷｯﾁﾝｶｳﾝﾀと一体的にしつらえられる傾向が見られる。

５．結　以上、食卓まわりの壁面や床、天井から平面と断面を捉え、行為を促す要素との関係から 11 の類型を導くことで、別荘建築における食卓まわりのしつらえの特徴の一端が明らかになった。

註 1)　しつらえとは「設けととのえること。飾り付ける事。設備。」を意味する（広辞苑）本研究での建築的しつらえとは壁や窓、キッチン等の建築物と一体化された部位によるしつらえを指す。
註 2)　本研究では 1990 年 1 月から 2009 年 9 月までの「新建築住宅特集」に掲載された、用途が別荘、週末住宅となっているもののうち、食卓の図面表記がある 134 件を対象とした。
註 3)　食卓の大きさ及び、周囲の椅子や通路の幅を想定した、食卓の中央を中心とする 6m 角の範囲を食卓まわりと定義した。
註 4) この場合の壁面とは壁および窓による垂直面のことをいう。

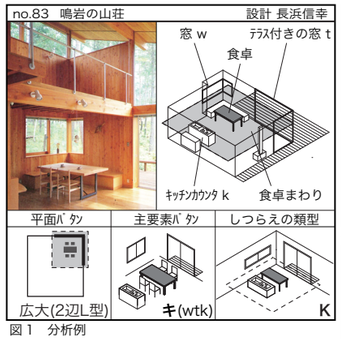

図 1　分析例

表 1　食卓まわりの平面ﾊﾟﾀン

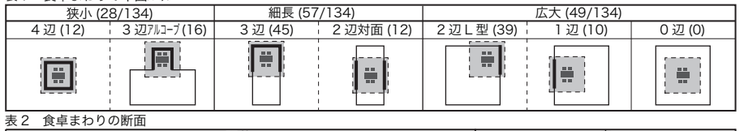

表 2　食卓まわりの断面

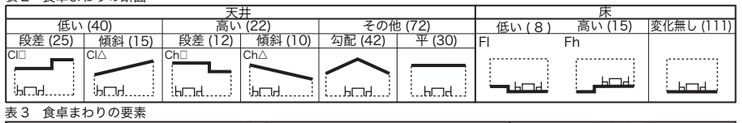

表 3　食卓まわりの要素

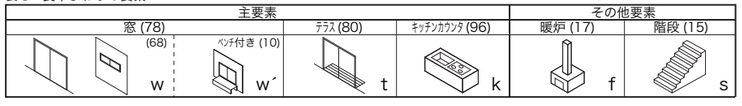

表 4　食卓まわりの主要素ﾊﾟﾀン

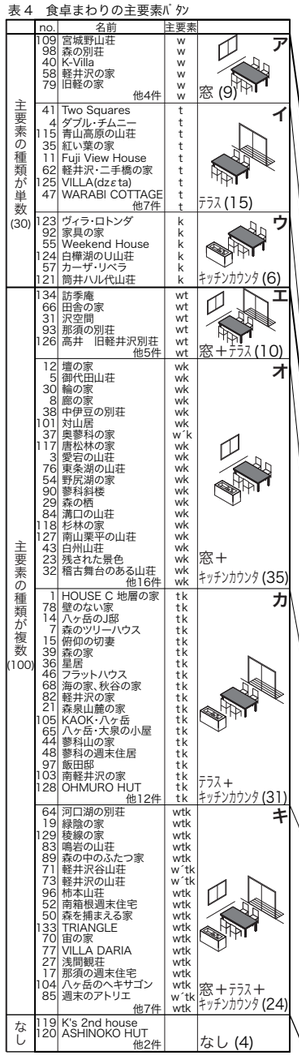
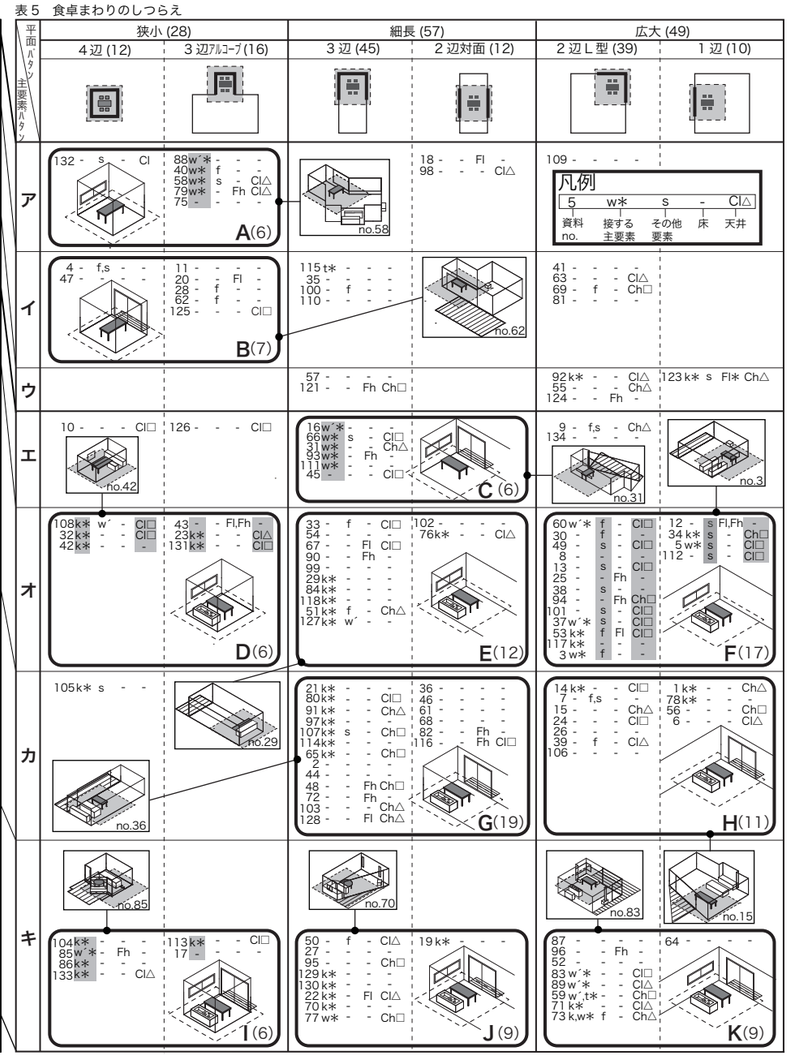
表 5　食卓まわりのしつらえ